

令和6年度の「医療安全推進週間」を通じて伝えたいこと

厚生労働省地域医療計画課
医療安全推進・医務指導室

背景

- ① 厚生労働省は「医療安全推進週間」において様々な関係者と取り組んできており、一定の成果はあるが**認知度が低く、医療安全自体の認知向上も未だ課題**
- ② 近年、**医療安全への患者の参画**の重要性が指摘されているが、患者側の知識向上も必要な状況。国民へのアンケート※では、
 - ・「医療安全において患者にも役割があると思う」「自らも取り組みたい」という声が多い
 - ・一方、「医療安全に参画するために必要な知識が、患者側に不足している」という声も多い

(※令和4,5年度厚生労働行政
モニターアンケート)

目的

- ① 「医療安全推進週間」の認知度を高め、患者側・医療側を含む国民全体の**医療安全への関心**をもっていただく
- ② **医療安全への参画に必要な知識**を国民に提供して**参画を促進**し、医療の安全・質の更なる向上を目指す

- ① 国民全体の**医療安全への関心**をもっていただく ➤ 『劇場版ドクターX』とタイアップ

タイアップの趣旨：決め台詞「私、失敗しないので」をもとに、「医療で“失敗しない”のは当たり前なのだろうか」と、患者側・医療側を含む国民全体で、**医療の安全について考えるきっかけ**をつくりたい。



みなさん、こんにちは。劇場版ドクターXで大門未知子を演じております米倉涼子です。医療の現場は常に危険や想定外と隣り合わせです。そんな中でも安全な医療を目指すためには、医療チームみんなの協力と、安全のための**“仕組みづくり”**が鍵なんです。また、最近は患者さんが医療の安全のために果たす役割にも注目されているんですよ。みなさんも、**医療の安全のこと、一緒に考えてみませんか。**



タイアップポスター

- ② **医療安全への参画に必要な知識**を国民に提供し、**医療安全への参画を促進**する

➤ 広報誌「厚生労働」11・12月号の特集



- ・ 専門家が分かりやすく解説
- ・ 医療現場の取組を紹介
- ・ Doctor-X×医療現場×行政のスペシャル対談

➤ 医療現場の取組の取材動画



普段、患者の目に触れることの少ない水面下の取組を密着取材
 ・ 患者の安全への医療現場の思い
 ・ 安全のための“仕組みづくり”
 ・ 安全のために患者ができること

伝えたいこと

国民の皆さまへ

＜知っていただきたいこと＞

- ✓ **医療にどのようなリスク(危険性)があるのか**
 “回避できるもの”, “回避が難しいもの”を含めて、医療には様々なリスクがあります
- ✓ **リスクを減らすために、どのような取組があるのか**
 医療機関は様々な工夫や取組をしています
 ▶ 広報誌・動画で紹介した例：
 インシデント報告、医療安全の委員会、患者確認、検査報告書の組織的な確認
- ✓ **リスクを減らす取組に、患者が関わるとどんな効果があるのか**
 患者が参加・協力することで、医療安全の取組の有効性が向上します

＜実践していただきたいこと＞

- ✓ **回避が難しいリスクもあることを知り、納得した上で医療を受けましょう**
 合併症・副作用などについてもしっかりと説明を聞き、疑問や希望を伝え、主体的に方針決定に関わりましょう
- ✓ **リスクを減らす取組に参加・協力しましょう**
 医療機関の医療安全の取組に協力しましょう
 ▶ 広報誌・動画で紹介した例：
 患者確認への協力、受けた検査の結果の確認
- ✓ **“気付き”を声に出しましょう**
 症状や患者の“気付き”を積極的に伝えることが、リスクの管理（診断や情報共有の正確性の向上、合併症の早期発見など）につながります

関係者全員の協働で、医療を安全に

令和6年度の厚生労働省の取組